

「いのち」の教育実践事例

☆天童市立第四中学校の実践

いのちの継承の大切さに関する教育

－ 実践のテーマ －

人それぞれ、その生き方は多様であることを理解し、生き方について真剣に考えるとともに、家族や社会の一員として適切な判断や意思決定、行動選択ができるようにすることが展開されている事例です。

「いのちの歌」全校で歌い継いでいる：全校生

・「出会ったこと笑ったことそのすべてにありがとう…」、天童四中の伝統として生徒会が主体になって全校合唱に取り組んでいる。全校生が歌詞の意味を考え、その素晴らしさを共感し、合唱コンクール、卒業式、PTA 総会などで歌い継いでいる。

「命の大切さを学ぶ教室」の実施：1・2学年

・事故遺族の会「こまくさの集い」代表渡邊理香氏が講演。最愛の娘さんを失った悲しさや、命の大切さについて学んだ。事故に巻き込まれた遺族の話は、生徒の心に突き刺さり、家族の大切さや命の大切さを改めて感じる事ができた。

「認知症」サポーター研修：2学年

・自分の家族が認知症になったら、自分はどんなことができるか。認知症になった家族のサポート（認知症を悪化させない、傷つけない、家族のきずなを守る）についてロールプレイを通して学ぶことができた。

「薬物乱用防止教室」の実施：3学年

・学校薬剤師の山口貴史氏が講演。医薬品を、知識のないまま使用したり、大麻や覚醒剤を、医療目的外で使用することはできない。脱法ハーブ（ドラッグ）は、失明や依存症につながることもある。お茶やエナジードリンクなどに含まれるカフェインやお酒に含まれるアルコールの過度な摂取は、健康を害する恐れがある。これらの事例を通して生徒は、自分の選択と行動が大切であることを学ぶことができた。

「SNSの害、上手な付き合い方」：3学年

・SNS を利用した犯罪や、仲間同士でのメッセージのやり取りでトラブルが多発している。年齢や性別を変え中学生に近づいてくる者や、言葉の意味の取り違いから仲間外れされた事例をもとに、犯罪やトラブルに巻き込まれないための方法を学んだ。また、一日の中で、携帯端末等のメディアにどのくらい依存しているかを振り返り、SNS に頼らない生活を考えることができた。

